

# 栃の木からの手紙

2023年 文月 7月号



2日： 半夏生

3日： 満月 旧 5月 16日

7日： 小暑

18日： 新月 旧 6月 1日

23日： 大暑

## 【 赤ビーツ 播種から移植 】

6月下旬、漸く16本2反程の赤ビーツの移植が完了しました。今月号では、赤ビーツの種蒔きから移植作業までをまとめてみます。

昨年までは、4月1日から4回に分けて赤ビーツ（デトロイトダークレット）の播種を行っていましたが、早く植える事での塔立ちの多さと遅植えでの生育の悪さを考慮して4月13日（64枚）と5月15日（72枚）の2回、研修生の方に播種作業をして貰いました。2回目の播種の時には、1回目の苗の間引きをしながらの播種作業になっています。

播種に使用する土は、有機JAS認証の取れている専用の育苗土を取り寄せて使用しています。赤ビーツの種にしても、種苗会社より「遺伝子組み換え技術を使用していない」証明書を取り寄せて使用しています。



育苗しているハウスは、3月下旬から食用芋の浴光に使用されていて、4月中旬までには種芋消毒・芋切の作業の為にこの場所から移動してこの場所は育苗ハウスに変わります。

育苗ハウスでは、有機JAS使用の苗が直接地面に触れないように、ブルーシートを敷いた上にミニコンを並べてその上にセルトレーを並べて育苗しています。温度調節の為にパオパオシートやビニールシートを掛けられる様にもしています。今回、播種したトレーに散水後10段ほどに積み上げて遮光シートで3日間くるみ熱と水分で発芽促進処理をしました。4日目、2, 3mm発芽した芽が重なっているトレーに押されていますが広げて並べたら元気に育っています。



### 赤ビーツの移植作業は

5月16日 1回目苗 23枚

研修生

5月23日 1回目苗残り分36枚 残5枚分

研修生

6月12日 1回目残と2回目苗66枚残11枚

研修生

6月14日 1回目残と2回目苗残り 残6枚

6月28日 2回目苗残り 移植完了

今回、4月13日に播種した赤ビーツ苗は、5月23日が40日目で一般のビーツで言うところの40日苗になります。実際、移植最初の5月16日には、苗が小さく64枚の中の23枚しか植えられませんでした。

左写真上から3枚目の苗の写真は、右が4月13日、左が5月15日播種で6月14日撮影。右の苗は葉色が濃く根の赤色も濃くなっています。

苗を移植する畝の幅は、昨年まではビーツ幅66cmでしたが今年は芋幅72cmにして半培土にして22cm間隔で植えています。

この有機圃場は20年以上芋中心に栽培している中で昨年まではビーツ幅で赤ビーツを栽培していました。作業・管理の効率化の為に畝幅を芋畝幅に統一しました。

アカシアの花が満開になった頃、赤ビーツの移植作業が終了しました。苗の生育の問題もあり育苗回数2回に対して移植作業は5回行いました。早魃の天候の中、移植作業をする度に洗浄したスプレーヤーで苗に灌水作業を夜行っていました。

苗も漸く定着し成長していますが、雑草の処理に気を使う時期になりました。

